



木簡研究第三号

卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 僥

一九八〇年出土の木簡

二カ所存在する。文字の内容は適確には判読できないが、大意としては、舟子たちに何かを据えつけるように伝えたか、指示したものと考えられる。

(阿部嗣治)

昭和五八年度大宰府出土の木簡

昭和五八年度の大宰府史跡の発掘調査は、政庁前面の県道関屋—山家線と御笠川にはさまれた地域で数次にわたり行われたが、その概報が刊行された。そのうち特に不丁官衙地区南端の第八五次調査では、南北溝中から五八点に及ぶ木簡が出土し、内容は付札が二〇点を占め注目され、北方の藏司地区付近で投棄された可能性が指摘されている。

福岡県教育委員会九州歴史資料館発行

『大宰府史跡 昭和58年度発掘調査概報』

一九七七年以前出土の木簡 (3)

- | | | |
|------------------------|-------|-------|
| 平城宮跡 (第二次・第二二次北) | 薬師寺 | 下岡田遺跡 |
| 中國における簡牘研究の位相 | 池田 温 | |
| 庸米付札について | 狩野 久 | |
| 静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について | 原秀三郎 | |
| 草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心にして | 志田原重人 | |

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円